

図書館だより

埼玉県立図書館

16号



摩珂池のほととぎす句碑

ほととぎす声横たふや水の上 はせを

俳聖松尾芭蕉の発句である。ほととぎすは俳諧では夏の季語となり、時鳥・杜鵑・不如帰・子規と書き、ツッペンカケタカの啼き声とともに、卵を鶯に託す面白い習性を持つ、渡り鳥として詠われている。

時鳥が江上を飛びゆくその声は、いつまでも水の上に漂い、横たえられているようだと
の意で、音声を形態化した作品である。

元禄六年の四月、荊口（弟子）あての書簡を讀むと、この句稿を芭蕉はいかに推敲したか、次の初案と比較して、前掲作品を鑑賞して欲しいものである。

ほととぎす声や横ふ水の上
一声の江に横ふやほととぎす

この句を刻んだ芭蕉句碑が、児玉郡美里町広木の摩珂池に、また隣りの砥薙神社の入口に建っているの、見字をおすすめる。

都会地に限らず、山間でも時鳥の声を聞かなくなつて久しい。ところがこの発句は、江戸深川の囀目吟である。

（鈴木）

2012345678913012345

館を去って図書館を想う

山田 淳之

本がうず高くない近頃は何んとか悲しくさびしいものです。読書浄土への道が遠くへ去ってしまったようです。たしかこの読書浄土という言葉は、かの歴史小説の大家、吉川英治先生のいわれたことだったと記憶していますが、私はこれを読書を通じて煩惱を水に流した大地、清められた土地などと勝手に解釈づけています。

耕すたのしみ

読書は何んのためにするかなど、いまさらながらいうまでもありませんが、その根本は心を耕すためにするものと思っております。しかもそれが詩人の透徹した心の琴線にふれるまでもと欲張ってみたいと思いません。

心のことに限らず、耕すことは楽しい反面大変くらしいことです。畑の土くれを掘り起し、一寸でも深くなどと考えるとなおさら玉の汗をよびます。ましてや、意識を越えた無意識の領域まで及ぼすためのこの耕し方はなみだいでではありません。

ひるがえって、過去四年間、心を耕す場で、一冊でも肥すくになるよう蔵書の宝庫づくりに、微力をそそいだ毎日がいまなつかしく、生甲斐ある日々だったと真底から回想され、私にとつて全く「終の住処」そのものでした。皆さんの力添えで楽しく、張りつめたつとめに明け暮れたことを感謝いたします。

晴耕雨読に徹したい

さて、晴耕雨読の日常リズムも当初のようにうまく回転しませんが、なぜか耕すということに、興味をおぼえ単調ではありますが徐々に良い方向づけをしています。早朝から菜園の茄子やトマトに、水かけの挨拶を送ります。これは水をバイカイとしてトマトに対するスキンシップだと思えます。するとトマト特有の強烈な香を一齐に発散することであいさつを返します。茄子も同様、紺色をますます輝かせて朝の挨拶を返します。長い年月ぼろぼろに着古したカミシモをぬいだ気軽さもあつてか、楽しい朝の一時から今日のリズムが

はじまります。

そういえば、香のことで、胸をしめつけられるほどのなつかしきにおそれます。それは、図書館にただようあの特有の香です。何んといつてもこれは図書館ならではのことの出来ない香となつかしい限りです。また、大きな郵便袋から取りだされた、新刊本の山々からはさわやかなインクの香がたちこめます。さらに蔵書の山から部厚い貴重本を手にした時の何んともいえない感触など、限りなくなつかしく想えることばかりです。

心の地下水を汲みたい

茄子の輝き、トマトの芳香、野分のような雨、夕立雲を仰ぐとき、ふと子供心に立ち帰るような、遠いかなかな記憶にゆきあたりります。何んとも確然としない記憶、この思い出はたしか子供心のいつときの蘇生かもしれません。あるいはこれが長い

人生の中で、地下水となつて流れる生命の泉かもしれません。人々が緑の山に向うとき、夕焼雲をながめるとき強く感じる新鮮なあるもの、新鮮さを感じる心、こまでいたる心の耕し方はどうすればよいのでしょうか、万能をふるい、くわをうごかす中でふと思うことでもあります。

最近の本で、大脳生理について書

いた中に、人間の脳には、左脳と右脳とが二つならんで置かれ、左脳は分析や論理面をつかさどっているといひ、また右脳の方は総合や直観、経験などをつかさどっているという。また左脳は一面、いまはやりのコンピュータ的な作用をもつものともいわれています。しかしこれから耕されなければならぬ方は、右脳の働きの方ではないでしょうか。総合性や直観力にあふれた頭をもった人こそ、これからの困難な社会をきりひらく素養の持ち主といつてもよいと思えます。なぜなら古今東西の賢者がいうこと、仏言にしても、皆この直観力をうたつておりますし、この爆発的な直観力こそ神通力であるともいつております。人としての本来のものへの希求、自信にあふれた人の出現を期待します。

失意と得意と平常心は

明治の達人、勝海舟の言葉に「得意淡然・失意泰然」というのがあります。これは、私なりに考えますと、失意のドン底でも、得意の絶頂でも、淡々と泰然と平常心でおられる人、こういう人こそ心が肥よく耕かされた人、時代の先達となりうる人ではないでしょうか。適切な言葉かどうか

かわかりませんが、今後図書館も、左脳の頭の養成に役立つ本もさることながら、いっそう右脳養成に役立つ本でいっぱいになるよう期待します。

古い話ですが、ここでゲーテの願いごとのお話しをいたしますと、かの大文豪ゲーテはいうまでもなくワイマール侯国の宰相として、時の国策に、文化の進展に尽力した功績は有名ですが、そのゲーテが晩年にもなつて、「いままで数々の行政を実施したが、最後に図書館行政(博物館)をやってみよう」と、ワイマール公にお願いしたともいわれています。帰すところ、ゲーテの人の心を耕す行政への宿願がこうさせたのではないのでしょうか。こういう行政が最先行されなければ、読書浄土はほど遠いのだと思えます。

さらにもっと古い話で恐れいりますが、孔子様のお話しがあります。全く賢者の名言は洋の東西を問わないのでしよう。それは弟子と孔子の政治問答の中に語られています。まず弟子が政治の理念として、何が真に必要で、何が必要でないのかという点に對し、孔子は「まず兵を去りなさい、次に食を去りなさい、そして最後に真をとりなさい」と。

戦国の世にしてこのような名言を残しております。真理ははぐくまれない社会をぞ、何んで人間社会といえるのだと、食を去つても真理に生きなさいと強く教えているわけですね。

おわりに

先日は久しぶりに図書館の行事に参加いたし、楽しく万葉の里を散策しました。あの伝統の奈良には、香山などという象徴があります。またどよりの京の街には「哲学の道」などと心にふれる道が設けられています。いずれも古き都の文化への指向文化的象徴です。坂東でも、埼玉にも真理の館、考える森ぐらいつてもよいのではないのでしょうか。なにせ深い意味をたたえた象徴が欲しい限りです。

文化というのは、発生は、その語義はクルトゥール「耕す」であるといわれております。文化を掘りおこす、心を耕す館が、日常くらしの園内にぞくぞくと建ち、誇り高い人達が十分に読める館がまじかまえる地域社会で、生涯読書、生涯青春、読書浄土へと向う道すじをつけてもらいたい、それも一本の道でなくバイパスもと切にお願いいたします。(前浦和図書館副館長)

県内図書館めぐり

越谷市立図書館

市民の皆さんが待ち望んでいた新しい図書館が完成し、市制施行二十五周年にあたる昭和五十八年四月一日にオープンしました。

この建物は鉄筋コンクリート造り地上三階建延べ三、一九二平方米で、外壁は赤レンガ、屋根は銅板ぶきといたつた、中世ヨーロッパ風建造物で、歴史的経過に左右されることなく、周囲の地域環境とも調和をもたせ、構造的にも長い風雪に耐えられるよう配慮されています。

敷地内にはケヤキ、ハナミズキ、モミジ、ユリノキ、クスノキなど多くの樹木を植え、図書館の利用者が木漏れ日を浴びながら緑陰で読書できるよう配置してあります。

内部の施設は市民に開かれた「くらしの中に図書館を」をめざして、気軽に利用できるよう、多くの工夫をこらしてあります。

- 一階
 - 公開図書室 七八三㎡
 - 一般コーナー図書 七五〇〇冊
 - 児童コーナー図書 三三〇〇冊



所在地 越谷市東越谷四丁目九十一 TEL 〇四八九(65)二六五五

- 新聞・雑誌コーナー 一八〇種
- その他障害者用二、〇〇〇冊及びレコード、カセット等視聴覚資料
- 閉架書庫(積層二層) 一九五㎡
- 収蔵図書 一三〇、〇〇〇冊
- 二階
 - 参考調査、郷土資料室 三九九㎡
 - 収蔵図書 二〇、〇〇〇冊
 - 視聴覚ホール 一三九㎡
 - 収容人員 八〇〜一二〇人
- 三階
 - 読書室 九二㎡ 七〇人収容
 - 研修室一、五六㎡ 三〇人収容
 - 研修室二(和室) 四八㎡
 - 三〇人収容

埼玉の文学 埼玉関係の俳諧資料考

▽1△

埼玉県にかかわる江戸期俳諧宗匠として、毛呂山町の川村碩布を紹介したい。碩布の図書資料としてまとめたものは、

- 春秋庵川村碩布 昭453刊・毛呂山町文化財保護審議委員会発行と、
- 川村碩布(続) 昭493刊 同委員会発行の同じ四六判のものがある。年譜によると延享元年生れ、歿年が天保十四年(一八四三)九四歳となると、逆算で寛延二年(一七四九)生れが正しいこととなる。毛呂本郷の名主川村宗孝の子として、本名文久、幼名金助、通称金左衛門、後には七良平と名乗っている。生家は酒造を営み、村長をつとめたこともあった。俳諧を加舎白雄に学び、山根連なる社中をもって、門弟多数の指導にあたり、同門の八哲の一人と云われるに至った。宮本虎杖・常世田長翠・倉田葛三・藤原保吉・美濃口春鴻・建部東兆・鈴木道彦・川村碩布のいづれも有名な俳諧師連である。同資料の春秋庵系統図を見ると、春秋庵白雄(2)長翠(3)葛三(4)碩布(5)久米逸淵(6)野房梅笠(7)遠山弘湖(8)野口有柳(9)三森幹雄(10)三森準一(11)鈴木保雄と、最近まで受け継がれてきたようである。
- 面白史話 昭2611刊 斎藤茂八著 熊谷紫石出版社発行によると、(正風大祖)花之本大神・麦林舎乙由一守黒庵柳居一松露庵鳥酔(正風中興祖)白雄一碩布一春秋庵改め可布庵逸淵一惶庵西馬(明倫講社開設)不去庵幹雄一可布庵茂翠一黄鳥舎升香として伝統を相続と記載され、松尾芭蕉は性格化され、俳系の面白さを物語っている。
- 八翁六百題発句集 乾坤二冊 六氣庵碩布先生撰、無窮庵太魯梓、弘化二年(一八四五)古杉坡老人双鳥誌となっており埼玉に関係する遊俳業俳仲間間の出版物である。
- 類題百家俳句全集 明439刊 博文館発行によると、碩布は百家の中に選ばれ、四季の作品が数多く採りあげられている。
- 埼玉史談一巻六号 昭57刊 島田筑波氏が、河村碩布と題し紹介文を書いている。
- 「関東公論」紙に 昭9125付、

春秋庵碩布を辻尚郎氏が発表してあり、峯岸久治氏がそれを手写して、市立川越図書館に保存されている。

- 毛呂山町史 昭531刊 町史編さん室発行によると、近世学芸編に川村碩布を、明治期俳諧欄で、碩布一門の野口有柳・伊藤有終・可庵と六氣庵嗣号について紹介している。
- 新編埼玉県史 近世3文化において、碩布居士発句集(十三回忌)安政二年秋 逸淵編さんによる同集が登載されている。
- 埼玉県名家著述目録 昭73刊 埼玉県立埼玉図書館発行の川村碩布欄を見ると、
- 白雄句集一冊板行弘化四年刊 碩布句集二冊未刊
- 碩布発句集二冊板行(前記のもの) 春秋稿(八編のうち一冊)文政七料としては、
- 川村碩布筆・梅亀の軸装 天保九年の梅と同十年亀の水墨画が県立博物館に保管されている。
- 対幅の掛け軸 梅と俳句を書いた水墨画が、深谷市折の口 大沢甲子雄氏宅で発見されたと報道されている。
- 碩布筆 花蝶図と自画像 碩布筆 短冊「名月や……」 福生市郷土資料室の「庶民の文芸俳諧」特別企画展(58年2月実施済)の中に二点含まれている。
- さて最後に碩布の句碑については、「埼玉人とところ」57年10月号で、「ごころにのこる埼玉の江戸期宗匠」の中に二基紹介したが、紙数の関係で洩れたものを掲げると、
- 春の水ゆふ山者麗天流連気り碩布 児玉町東石清水八幡社境内に、安政六年弥生、檀察青荷謹書をもって、逸淵が建立した句碑がある。青荷とは逸淵の弟子で、書をよくした児玉町の細村九平氏のことである。
- 初花の氷をわけて咲にけり 碩布 毛呂山町毛呂本郷三二八妙玄寺境内に、昭459町有志の建てたものがある。梅翁碩布墓石の隣に碩布の建立した父親の墓石があるが、其水という俳号で辞世句が刻まれている。
- 姨石の高きわすれて月や月や碩布 長野県埴田山長命寺境内の句碑であるが、昭469毛呂山町春秋庵碩布句碑建立事業賛助者44名により建設されたものである。姨捨いしぶみ考、風景社矢羽勝彦氏によると、文政七年と彫られているが文化二年の作品であり、碩布の真蹟を探して句碑にすべきであり、石材店名などコマイシャルは不必要と手厳しく批評している。

東西南北

読書感想文の募集

作品内容

読書をしたこと、あるいは本を読んだこと、あるいは生活が豊かであるおのいのあるものになったという経験など。

応募資格

県内に居住する20才以上の方。枚数・様式 四百字詰め原稿用紙四〜五枚で一人一点とする。

応募方法

応募作品には、そのはじめに題名のみを記入し氏名は記入しないこと。なお、題名・住所・氏名・年齢・職業及び読んだ本の書名・著者名・出版社名を別紙に記入し作品に添付すること。

応募先

埼玉県立浦和図書館読書感想文係(〒336 浦和市高砂三丁目一番二二二号)

締め切り

昭和五十八年八月三十一日(水) くわしくは、同図書館へ(〇四八八 一八九二二八二二)

7・8・9月の主な催物

県立浦和図書館

○夏休み親子映画会

日時 7月28日(木)10時/14時
内容 「ピータと狼」・「ブルトンズがんばる」ほか

日時 8月4日(木)10時/14時
内容 「おこんじょうり」・「猿の子踊りと仲間たち」

日時 8月18日(木)10時/14時
内容 「はなたれこぞうさま」・「チヨコレット戦争」

日時 8月23日(木)10時/14時
内容 「白き氷河の果てに」

日時 8月6日(木)10時/14時
内容 「北壁に舞う」

日時 8月13日(木)10時/14時
内容 「穂高岳讃歌」・「黒部峡谷」

日時 8月29日(木)10時/14時
内容 「アイズニ短篇マンガ」全3篇ほか

日時 8月6日(木)10時/14時
内容 ○名作映画鑑賞会

日時 8月6日(木)10時/14時

日時 8月6日(木)10時/14時

日時 8月6日(木)10時/14時

県立川越図書館

○夏休み親子映画会

日時 7月28日(木)10時/14時
内容 「吉四六ばなし」ほか

日時 8月4日(木)10時/14時
内容 「赤い風船」・「お百姓の足お坊さんの足」ほか

日時 8月11日(木)10時/14時
内容 「たぬきのいる町」・「月の峰の狼」・「エジソン」

日時 8月18日(木)10時/14時
内容 「かあちゃんの家」・「キューリー夫人」ほか

日時 8月25日(木)10時/14時
内容 「ゆかいなリトルボーイ」

日時 8月25日(木)10時/14時
内容 「ブカドン交響曲」ほか

日時 8月25日(木)10時/14時

日時 8月25日(木)10時/14時

日時 8月25日(木)10時/14時

日時 8月25日(木)10時/14時

日時 8月25日(木)10時/14時

日時 8月25日(木)10時/14時

県立久喜図書館

○夏休み子ども映画会

日時 7月28日(木)13時30分
内容 「お父さんの宝島」ほか

日時 8月11日(木)13時30分
内容 「青い目の人形」・「私はみたその日の広島を」ほか

日時 8月25日(木)13時30分
内容 「おぼすて山の月」・「たぬきのいる町」

日時 8月30日(木)10時/13時30分
内容 「象のいない動物園」

日時 8月27日(木)10時/13時30分
内容 「子どものころ戦争があった」

日時 8月4日(木)12時15分
内容 ポピュラー新譜紹介

日時 8月18日(木)12時15分
内容 クラシック新譜紹介

日時 8月4日(木)12時15分

日時 8月4日(木)12時15分

日時 8月4日(木)12時15分

日時 8月4日(木)12時15分

日時 8月4日(木)12時15分

日時 8月4日(木)12時15分

読書グループの紹介

公民館活動とともに

すずしろ読書会

岡部町に、公民館図書室が出来て今年で六年目、私達の読書会は、この図書室とともに歩んで来ました。昭和五十三年、公民館に、図書室が設置されたのを機に、岡部小学校PTA読書部から別れて、公民館活動として、誕生しました。

現在、会員数五十八名、大半が主婦で、家事の合間に本を読み、時間のやりくりをして、図書ボランティアの仕事に、生き甲斐を見つけています。



月一回の例会は、主に現代文学を取り上げ、課題作品についての話し合いを行います。テキストは、県立図書館の貸出文庫を利用、毎月、公民館へ届けられた本を、地区ごとに分け、実行委員が各会員に配布します。年間二回の文学散歩を実施、これまでに読んだ本の中から、その舞台となった土地や、作品にかかわる場所を訪ねます。また、この六年間、継続して、秩父の礼所を中心に、この地方の歴史をしらべ、文学にゆかりの地を訪れて来ました。

この他、公民館図書室の貸出奉仕、公民館の行う事業のうち、読書にかかわる分野での協力、町民文化祭への参加協力、新年のかるた会には、一般参加を呼びかけるなど、地域社会との交流をはかっております。

一昨年は、県立図書館、町教育委員会等のご協力により、第十六回、YBC大会を岡部町で開催しました。三好京三氏を迎えての記念公演は、地元でも大変好評でした。

会名の「すずしろ」は、岡部町が大根の産地であるところから、命名したのですが、私達も、大根の花のように、人目につかなくても、大地にしっかりと根を張って、大きな「実」を育てて行きたいと思っております。

「紫苑読書会」

皆野町読書グループ

昭和四十八年十一月、当時小学校の図書主任をしておられた黒沢育子先生のお勧めで会員たった三人の「母親読書グループ」が生まれました。

まず県の「本を読むお母さん大会」に参加、読書の楽しさ、重要性を痛感しました。集まったお母さん方の意欲的に学ぶ姿勢をまのあたりにし、それらが機縁で「紫苑読書会」が正式に発足したのです。

十年経った現在、会員は三十二名毎月一回県立熊谷図書館の貸出文庫をテキストにして読後感想を話し合ったり、文学散歩、史跡、句碑巡り講演会聴講などの活動を公民館の御骨折りのもとに行っています。

昨年から俳句、古典文学に造詣の



深い関口誠三郎先生を指導者に迎え、万葉講座も開いていただきました。万葉人の屈託のない大らかさ、純朴な心に触れ、若き日の感激を新たにしました。また、拓本のとり方も学び、十一月の町民文化祭には近くにある虚子の句など数点の拓本を出品できました。出来映えはともあれ、協同で一つのものを作り上げる喜びは、会の絆をより強めていく上に役立つように思います。

グループ読書には個人読書では得られない利点が多く、環境・性格・年齢などによる理解の仕方、文章の掘り下げ方など幅広く学びとることが出来ます。

また、配本され仕方なしに読んだ本から意外な面白さ、教訓を得ることもあります。月に一度ではあります。月一度で済むべきではありません。真に理解し合えるよい友を沢山得られたことを嬉しく思っています。

活字離れといわれるこの頃ですが、これまでの歩みを大切に、できるだけ多くの本を読み、作品の中のいろいろな人生、考え方を学んで、広い視野、正しい判断力を養っていくのが理想です。会員同志の心の触れ合いを密にし、活動を続けていきたいと思っております。



埼玉と方言

「きょう いくん」。埼玉の方言の一つです。標準語で言えば、発音の仕方によっての違いはありますが、「きょう いくのですか」というところでしょうか。

「方言」を広辞苑で見ると、「①一つの国語が地域によって異なった発達をし、音韻、語彙、文法の上で相違するいくつかの言語団に分れるとき、それぞれの言語の体系をさしている。なお、社会の階層によって異なる言語を階級方言という場合もある。②或る地方だけで使う、共通語と異なる単語。偶言、土語。」とあります。

そこで今回は、私たちの最も身近な「言葉」の中から郷土をあたたくくみようと、埼玉の方言に関する資料のいくつかを紹介してみました。なお、この記事の作成にあたり、東京外国語大学日本語ゼミナールで昭和56年に刊行した「埼玉方言文

献目録」を、同大学の井上史雄先生の御好意により利用させて頂きました。

記載の内容は地域別の刊行年、書名の順序で所蔵館を付してありますが、雑誌については紙面の都合で誌名だけとなりました。「埼玉方言文献目録」には論文名、著者、発行年月も詳しく紹介されていますのであわせて御活用ください。また、各市町村史(誌)等にも数多く発表されています。

参考

「いくん」について埼玉のアクセント2通り。「いくん」「いくん」

全国

おてだまの異称―埼玉県― 杉山正世著 刊行年不詳 (浦)

埼玉県の方言調査 参考資料 杉山正世著 刊行年不詳 (浦)

めだかの方言―埼玉県― 杉山正世著 刊行年不詳 (浦)

方言訛言の研究 宮本明著 昭5 (浦・久)

埼玉方言集 丸山近美著 昭8 (埼玉教育 25・26・29・30号の抜刷合冊) (浦)

埼玉県下に分布する特殊アクセントの考察 金田一春彦著 昭33

(浦)

方言学講座 第2巻 方言の実態と共通語化の問題点―群馬、埼玉― 上野勇著 東京堂 昭36 (浦)

わたしたちの話しことば 埼玉県国語教育研究会編 昭41 (浦)

日本語地図 1〜6 国立国語研究所編 大蔵省印刷局 昭41〜49 (浦・熊)

全国方言資料 第2巻 関東甲信越編 日本放送協会編 昭42 (浦・熊・川・久)

埼玉県方言 埼玉県国語調査会編 埼玉県教育委員会 昭45 (埼玉教育 25・26・29・31号合冊) (浦・久)

関東地方方言事象分布図 大橋勝男著 桜楓社 昭49〜51 (浦・熊)

埼玉方言文献目録 東京外国語大学日本語ゼミナール編 昭56 (浦・熊・川・久)

方言と訛言 第1稿 大宮市史編纂室 昭39 (浦・久)

小針小学校をとりまく言語環境調査 中間報告 1〜3 小針小学校・小針小学校母の会編 昭42 (浦・熊)

1 (浦・熊) 2 (川) 3 (浦)

(熊)

越ヶ谷周辺の方言と由来考 三原善太郎著 越ヶ谷郷土研究会 昭42 (浦・久)

北葛飾

埼玉県幸手方言集 上野勇著 (愛知県) 土俗趣味社 昭8 (浦・久)

「ショウリョウバッタ」方言分布調査とその考察 久喜町立久喜中学校校編 昭37 (浦)

入間

金子村地方訛語・俗語・小児語及調査研究 荻原幸八著 昭5 (浦)

埼玉県川越市近傍言語集稿 杉山正世編 昭5 (浦)

国語読本に現れたる標準語と郷土の方言・訛語 高麗川尋常高等小学校校編 昭6 (浦)

入間

入間の方言考 鈴木良文(書) 昭7 (浦)

埼玉県入間郡宗岡村言語集 昭5年版 池ノ内好次郎著 昭7 (浦)

坂戸の方言 坂戸市高齢者学級編 坂戸市教育委員会 昭53 (浦・熊・川・久)

編集後記

◎図書館だより16号をお届けします。今号から埼玉文学欄は、俳諧関係の紹介記事になります。埼玉にかかわる参考資料として、御活用いただければ幸甚に存じます。
◎県立浦和図書館では、七月十六日から、埼玉資料室を開設しました。郷土埼玉を学ぶ研究室として、気軽に利用をおすすめします。
◎コンクリート壁にも、青蒿が這い上り、一層緑を濃くしてきました。まさに盛夏の季、読者の皆様共どもこの夏を元気に過ごしたいと思えます。

大里

川本地方の訛、方語、俚言葉集(稿)
新井栄作編 川本村郷土を知る会
昭50 (浦・熊・川)

りの会 昭45 (熊・川)
秩父の言いぐさ 正、続 常木金雄
著 きたむさし文化会 昭47・50
(浦・熊・川)

桑郡郷土研究集報 郷土文化 熊谷
市郷土文化会誌 言語生活 国語教
育 国語研究報告書 ことばの研究
埼玉教育 埼玉県郷土研究資料
埼玉史談 埼玉・人とこころ 秩父
郷土史報 秩父民俗 東京外国語大
学卒業論文集 東洋短期大学論集
土俗趣味雑誌(土の香) 都大論究
都立大学方言学会報 日本方言研
究会原稿集 ニュースクール(改題
後、埼玉教育) 風俗画報 方言
法政大学ゼミナール ほりかね 民
間伝承 民族学年報 武蔵野 文学
と言語 山形大学紀要

秩父

秩父の民俗語 青葉伊佐吉著 秩父
市立図書館・宮前書店 昭31
(浦)
秩父の方言巡り 新井佐次郎著 秩
父市立図書館(手写) 昭40
(秩父新聞連載記事) (浦)
秩父の方言 新井佐次郎著 エスプ

秩父「言葉と民俗」消えそうなもの
と消えたもの 坂本時次、堀口
英昭共著 木蘭舎 昭53 (浦・
川)
雑誌 誌名の50音順
茨城大学文理学部紀要 愛媛県同

と、独歩は小金井堤(現・武蔵
境・桜橋)附近まで来ているよ
うだ。
武蔵野の領域を文学の立場で
きめ、幾何学的な図式のなかに
武蔵野の美を求め、武蔵野の光
と影をこうまでうたいあげるこ
とが出来たのは、ワーズワース
やツルゲネフの自然観察の影響
を受けたからであろう。

おたずねください

問 国木田独歩の作品「武蔵野」の作品化の経過を知りたい

答 この「武蔵野」は、独歩が明治二十九年九月から三十年四月頃まで、当時の渋谷村(現、東京都渋谷区松涛附近)に住んでいたとき、渋谷村附近の見聞を記した彼の日記(欺かざるの記)をもとに作品化したもので、明治三十一年に「今の武蔵野」と題して国民之友という雑誌に二回に分けて掲載、その後、明

治三十四年三月に、「武蔵野」と題して民友社から単行本として発刊された。

この作品による武蔵野の範囲は、原文によると「武蔵野は、先ず雑司ヶ谷から起って線を引いて見ると、それから板橋の中間道の西側を通過して、川越近傍まで達し、君の一編に示された入間郡を包んで円く申武線(現・中央線)の立川駅に来る(中略)そしてそれが西半分」と書いている。また、独歩の日記による

学習研究社
明治文学全集第六巻・筑摩書房
文学と風土、武蔵野―桜井信著
社会思想社
文学散歩第六第七 野田宇太郎
著・文一総合出版
日本国有鉄道百年史第二巻・日本国有鉄道

参考文献
国木田独歩全集第二、第六巻・